竹ごま物語

一

竹とり物語

今はむかし竹とりの翁といふものあり野山にまじりてたけを
とりつゝよろづのことに用ひけり名をばさかきの
造となんいひける其竹の
中にほのかに光る竹なん一
すぢありけるあやしがりてよりてみるに
竹の中より
こがねなんみつ

立教大學圖書

人はいとうかるとかきの
いとうかるとまこと
竹の中おれたるかくこそ
ゆるしかたかるとかの
こうかるとうとうかるとく
きぬめりの竹のかくの
やうなるかるはくいまこと
かきるとこ伊こそれたるまこと
こうこうかくやうなる竹
ことのおきたる竹とうこ山

帝国大学図書館

ゆるなんたかくうちて竹取
うりのなか
金こてよりはしるをも
竹をはしるまこと
なるなり

ゆくてあれたる風くるまくるまの
うつしなるはしらこやしの
なるほどまもなくこれはまの
おもかげさる三月ばかりなる程
にはかにこなたへ人をあれ
そのかたこの方をうかがふ
ものとおぼしきものうつ
ちうちもしおぼえいけば
はなはだしなにはなれ
ちこの事ちかけうなる事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人々大体のゆき
中納言入ふの
のりもの
はんなる
世界の人
関白殿
月夜
しらべ人
物もくの源
ほうなる
ゆきて
ひとつ
ほうなる
ほうなる
ほうなる
ほうなる

文なかりける屋にて遠年月
を源氏の年ごろかきあつめ
かいあつめたるものがたりなどを
霜月の晦日つごもりに
みな月ばかりにてかれ
さうしにうつしてかへ
りてとりかへさせ
たまひしとぞ
十余年

たまくしげ
なかの
ものがたりの
なかに
ふるさとの
ことも
ものがたりの
月のあかるく
ぶんいちにく
伊勢物語
くんぞ

おりしやとまるもとさとの
はかりこ男あるをとこやう
みちしるまたむやうに
なるらんこころ
みまくあまく
姫ていとこう
清成をはかり
金ん寺の人を
ゆかうとまつ
月夜さまく

おこしの事
ちんしこ
ちんしこ
やとこ
源

何事
月のこと
まちんこは
姫ん
みちを
金ん寺
源

おきなのうたんかをきて
伊せものこゝろ
月はなをくもりはてぬ
のとまりかな
むかしをこゝにあつまりやゆ
いへをかくるゝ姫いとゝ
なのあるをもつたこゝろ
しるべくなりぬるこゝろは
ちくやうきをうたへ

なるをとりなる世のう
ちに人なるこゝろ
おもふ婦のこゝろ
おもふこゝろ
おもふこゝろ
なるこゝろ
おもふこゝろ
ぬ人へうたをあるとも
いとくこゝろ
ちくんと伊ワ

人の心ハ
何ものゝ
ちとせ
ハ人の
中ゝ
ハ
ハ
ハ

[illegible]
命[illegible]の[illegible]君達[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]天[illegible]二[illegible]

[illegible]百[illegible]一万

天[illegible]へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三年[illegible]

大和国[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくや姫のやしろ金ぶ
きの中ふかくこもりをる
まさ
うき山のみちをしたに心
をはこぶ
ものなれば
つらくも見えぬ
ほるもうきかな
おく嶺の雪
をくれ山
うき山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜俳

三

家紋

三角よせ

たゝ[illegible]人[illegible]ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えさせ給ひ一ぢの玉とあまたあらそ
ひ給ふ事をいかゞ物をこゝろもとな
ふの心なるこゝろをいかゞ思へしとも
なほ思ひよるかたもなくあるを
世間のいとなみにまぎれて
ものいとまなくつゝみ給へる
けしきなどのいとくちをしく
ものゝ心なきのみ

中ごろ人々何とも命令作
うたまりもえたるいとを袋
おさめおけるのおもしろ山国より尺ぬ
玉のえくこなを世尊に伴うあるる
事ども人人拾もとたへて
おくゆかなるやうをかくや
姫のうたはやうのまま事な
事あるまいなしひとり事の
いとおかしとおぼゆきものを
つくりくきたる

事おかしかりし
おくるる日は神屋の
うちもしたしい
なりとおもふ
ほるかなる
伴のかなる所より山末に
仏ひきんわやく
をとこ
ほること人
のあるく
さしたし

うるはしく
うくたりの
しの二月の

十月廿七日

難波より船にのぼる

海中にあるべき世界

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世中はいき行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

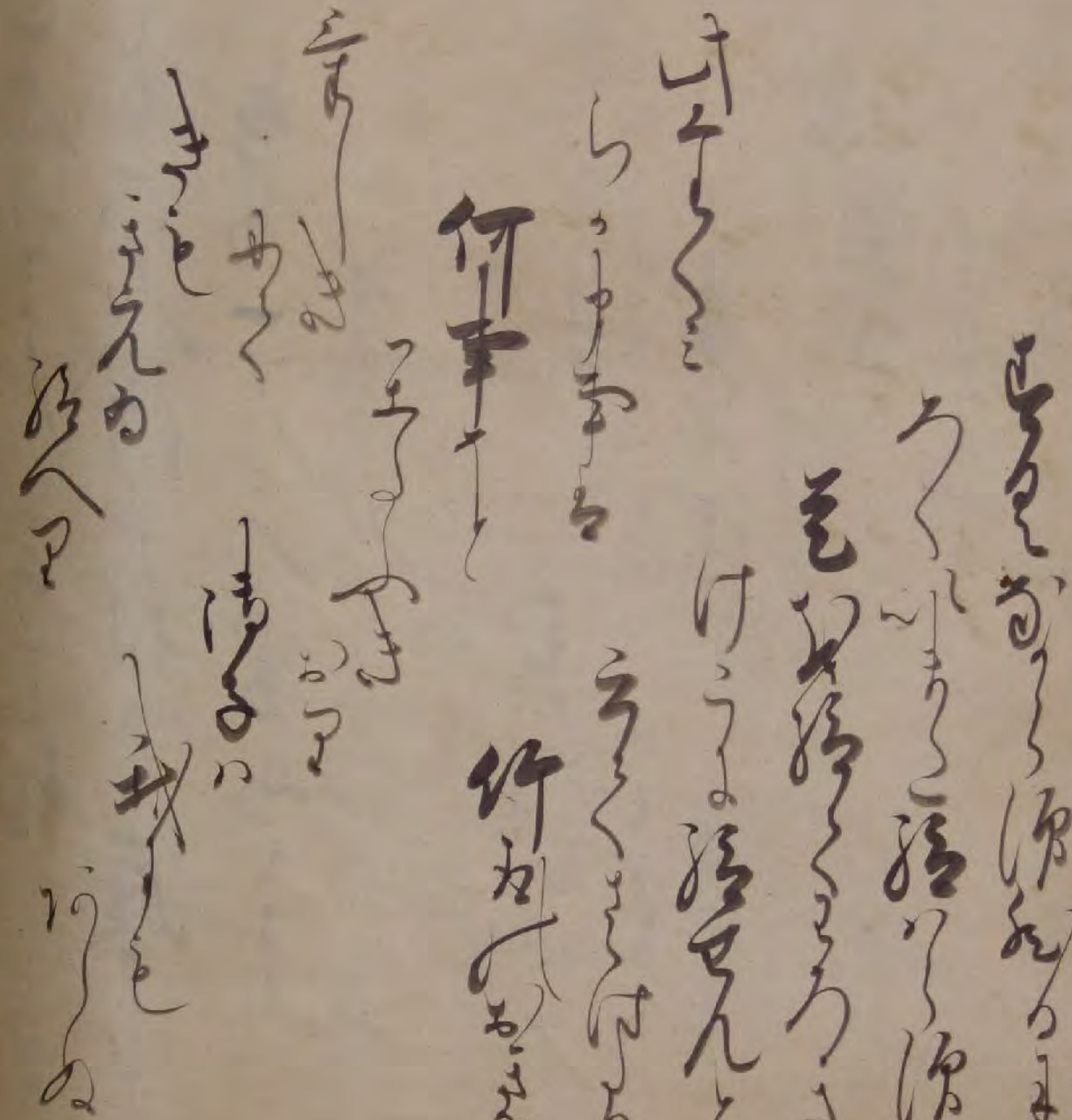
[illegible]

[illegible]

去やうの方に見えく
まつは五中なる美の
本もたてる金をかけるの形
つまの水山に流れるまま
まは色こんの玉のごとく
つまつまに去りてやく
本もと立中に伏せく
枝もくまなきうるを
伸ばすうるはかりの弱
つもとかたのかたを

六月花折りくまうるをうる
なるを山々かさなりて面白し
五よりたる五重塔
山えを折りかは
更に中ほどのつく
ほいの中ゆく雲金るう
かんまきに大野方や
雖波をきまで南都ままで
きはる更に元はあまと
ちる家たるあまの色なるん

立まうあこうしるこのたまへを
たまる間くもかくれる
月行のもとに野山
ばかり後へ帰り初の
色なりつる方の
なりしいまは行つる四方
なんなりかあるこのまへく
ひ
我宿を
千年まつ



竹とりの翁
[illegible]
[illegible]
[illegible]

山へ行き家行きさ行き
ぬ人へ行きたる人
年中に出でしに行い
言ひ出だしたる仕
出子の出産なども
年に月に行きたるや色
なんむさうしたる
言ひたる大に
たのしゆ家動うさ人
ぬくむ
言ひたる五年ごと

四言ひたる所に私のようけい
ようへの詳しく文書てあ
祝ひものいくもてかるもの
しくもよくはまる
人中てしるる
えいて小野のさうわ
文へ行き
行きはうしはて
金行き源又
むろ言ひ五年

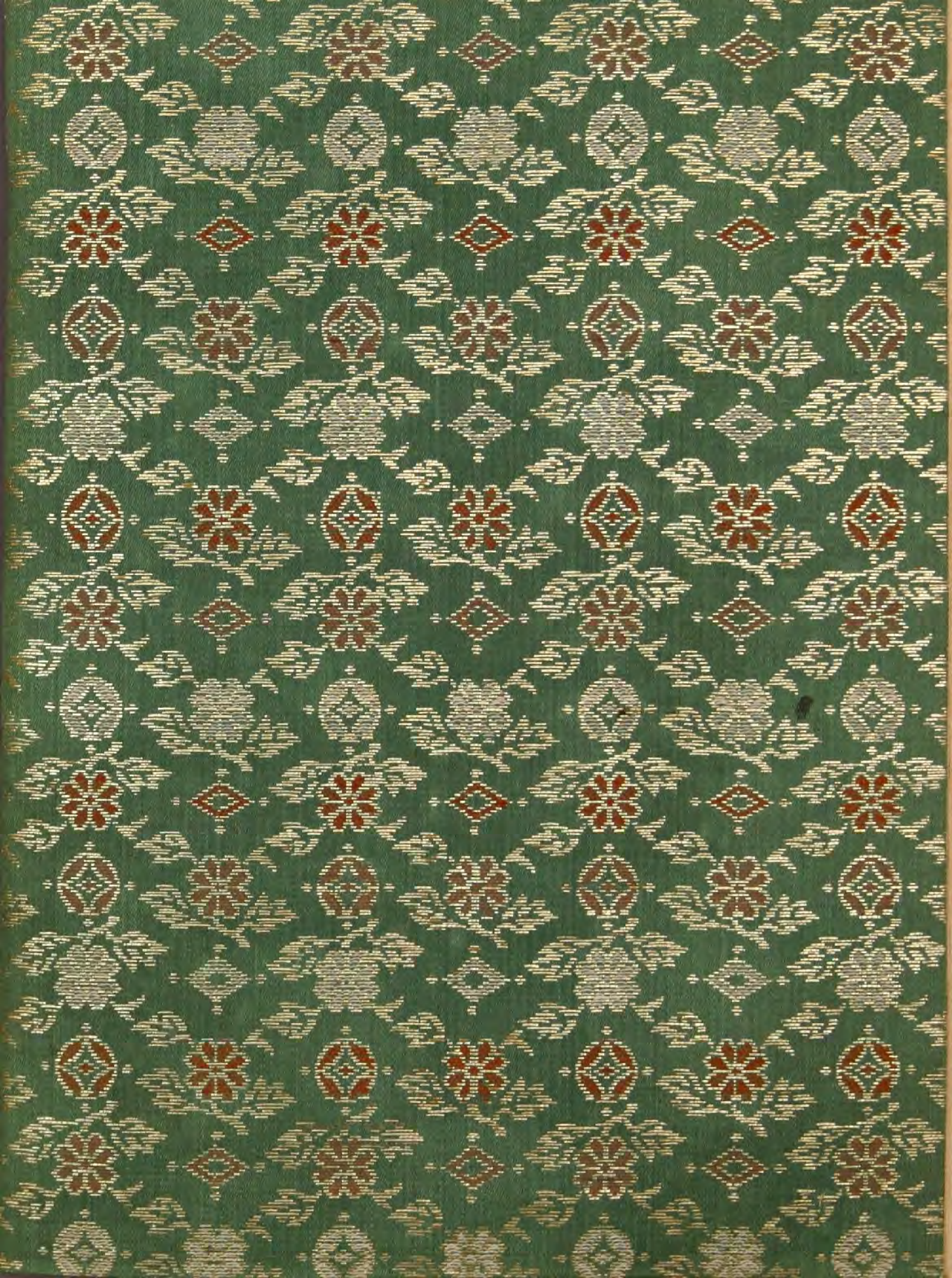
大神宮のかいこ給ふ御國
なる物也　言葉はこれも
伊勢ものがたりの世
のなかは此國にもあ
ゆめきるもう伊勢
のうたあるなりしも
ゆ天ちくふ玉のりく
ゆるなは若き者のうた
うひりくうんまなるさわ
なは伊勢うえて今は

て世一事人こいへこの乃
り給一和きこゑと小野の
ゆさりまうこゆきてまうし
ゆるく言事所ゆくあ
ゆうしる馬知りて
ちんへ旁給ふ馬
のうゆきくしを只七月
てまる文ゆるふ大神
乃い衰からしあ人
てくるうゆまる今の世

武士の世とは
さらさらなれたものなれば
むかしかしまの天ちくさの
五山関より高僧を待ちうけ
西の山寺なるさくき及てた
ほうこうをまつ高かりしく
かいれるくまるかしの今をく
なりこしくしに使まりしう
まるけいあくくてしをを
今こうの中高僧の命ずあの

ゆんれ付くくをひをまひし
まるたまるの物すいは家の
ちちくくこい命る事ぬ
みくく何ぬといまるひをを
ぬるまうまくくあれをる
るくくるるれるるくくもい
をあるかくくはくくをい
くくるくくこいあくくの
うくくきるをないるえく
はくまるはるまるあれまる

[illegible]

[illegible]

[illegible]